

2023 年 全国協議会

新型コロナウイルス感染拡大前後の年代別アルコール摂取頻度・量の報告 (ZRF study 第 32 報)

長濱さつ絵 12、堀愛 3、坂本宣明 4、大崎陽平 4、道川武紘 2、朝倉敬子 2、西脇祐司 2
1 全日本労働福祉協会、2 東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野、3 筑波大学医学医療系
国際社会医学研究室、4 ヘルスデザイン株式会社
坂本君 00010146、堀愛 00010147、朝倉先生 00012714、大崎先生 00010772

1200 文字（図表がある場合は 804 文字）

【目的】新型コロナウイルス感染拡大に伴い 2020 年度以降は特に日常生活が変化した。感染拡大による飲酒習慣の変化は少ないとする報告が多い一方で、その変化は年齢や性別ごとに異なるとする報告もあり、飲酒習慣の変化を特性ごとに検討することは重要であると考えられる。本研究では、2018 年度から 2020 年度の健診データを用いて、3 年間の飲酒頻度、飲酒量を、年齢別・性別に報告する。

【方法】全日本労働福祉協会の 2018 年度の 20 歳以上の受診者のうち、2019 年度、2020 年度の健診データがある人を対象とした。問診票のアルコール摂取頻度（毎日、時々、ほとんど飲まない・飲めない）と一回あたりのアルコール摂取量（1 合未満、1～2 合未満、2～3 合未満、3 合以上）について、それぞれの回答割合を算出した。情報が欠損している場合は除外した。年齢は 20 代、30 代、40 代、50 代、60 歳以上に分け、男女別に解析した。摂取量は毎日、時々飲む人のみを対象とした。

【結果】男性 218,692 人、女性 112,508 人を解析した。毎日飲む人は男女とも若年者で増加し、50 代以降で微減していた。増加の割合は若年で大きく 20 代男性では 2.7%（2018 年 8.3%→2020 年 11.0%）であった。ほとんど飲まない・飲めない人は 30 代以外の全年代で男女とも増加し、増加の割合は若年者で大きかった（20 代男性：2018 年 37.7%→2020 年 40.2%）。一回当たりの飲酒量は、毎日飲む 20 代・30 代の男性で 3 合以上の割合が微増していた。時々飲む人では全年代・性別で一合未満が増加、3 合以上が減少した。

【考察】新型コロナ感染症拡大後、各年代で飲酒頻度が減少したが、若年の男性では飲酒頻度と 1 回に 3 合以上飲酒すると答えた割合が増加していた。感染症流行により、若年男性で飲酒量・飲酒頻度が二極化した可能性が示唆された。若年男性への社会的アプローチの必要性について、今後の検討が必要である。